

平成21年度越前町の事業

平成21年度に町が行った事業について、その内容や今後の予定などを紹介します。

快適で安全に住めるまちづくり

【道路網の整備】

◆より安全な道路への改良
道路交通の利便性や安全性向上のため、町道の新設や拡幅工事、交通安全施設の設置などを行いました。



◆安全で良質な水の供給

安全で安心した水の供給を行うため、糸生・萩野地区において、送配水施設の整備を進めています。

◆豊かな自然環境の保全

清潔で快適な生活環境を確保するため朝日浄化センターでは、中央監視制御設備の更新などを進めています。

【情報通信基盤の整備】

◆携帯電話の不感地区の解消

ソフトバンクモバイル(株)、(株)NTTドコモ、KDDI(株)と協力し、織田地区の笹川で携帯電話サービスを利用可能にします。

【公共交通】

◆コミュニティバスの利用促進

コミュニティバスをより便利に利用していただくため、「回数乗車券」を販売、運転免許を自主返納された人に対し「無料定期乗車券」を交付、4月か

◆路線バスの維持支援・利用促進

路線バスの維持支援を行うとともに、路線バスを利用する高齢者・心身障がい者や高校生などに対する運賃の補助を行い、町民の「足」となる公共交通の充実を図っています。



【憩いの場の整備】

◆ポケットパークの整備

危険な空き家を取り壊し花壇やベンチなどを設置して、2か所の「ポケットパーク」を整備しました。町民のふれあいの場や憩いの場として利用されることが期待されます。

健康で安心して暮らせるまちづくり

【出産】

◆妊婦・乳児健診費用を助成

妊娠・出産の経済的負担を軽減するため、妊婦健診14回、乳児健診3回分に対して助成を行っています。

◆特定不妊治療費を助成

不妊治療を受けている夫婦の経済的負担を軽減するため、医療保険が適用されない特定不妊治療費の助成を行っています。

【子育て・少子化対策の充実】

◆病児デイケア事業

傷病の回復期または治療中で集団保育が困難な児童を一時的に預かることにより、保護者の子育てと仕事の両立を支援しています。病後児保育は織田保育所、病児保育は織田病院で実施しています。



◆すくすく保育事業

子育て家庭の経済的負担を軽減するため、第3子以降の3歳未満児の保育料を無料にしています。また、3人同時に保育所に入所した場合、第3子以降の保育料も減免されます。

◆子育て支援センター事業

子育て家庭の相談を受けたり、親子の遊べる場所を提供することにより、保護者の情報交換や仲間作りを応援しています。



◆乳幼児医療費無料化対策事業

小学校就学前までの乳幼児にかかる医療費の一部を助成し、子育て家庭の経済的な支援を行っています。

◆朝日南保育所の屋根を改修

老朽化した朝日南保育所の屋根を改修し、児童の安全と快適な保育環境の整備をしました。

【障がい者福祉の充実】

◆障がい者福祉の推進

障がい者のさまざまな相談に応じて必要な情報の提供や助言を行い、障害福祉サービスの提供や補装具費を支給するほか、意思の伝達に支障のある障がい者に対して手話通訳者をしたり、自立した日常生活を支援する用具の給付や外出支援など障がい者の地域での生活を支援しています。

【保健事業の推進】

◆特定健診・特定保健指導を実施

40歳から74歳の国民健康保険加入者を対象に、メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)に着目した生活習慣病予防のための健診と保健指導を実施しています。

◆新型インフルエンザワクチン接種費用の助成

新型インフルエンザワクチン接種において、低所得者の接種費用を全額助成しています。

【医療環境の充実】

◆医療機器の整備(織田病院)

手術環境の充実を図るため、過酸化水素低温プラズマ滅菌システムを導入しました。滅菌に要する時間は格段に短縮され、また、過酸化水素を使用するため滅菌終了時は水と酸素に分解し環境面でも優れた効果を発揮します。



また、眼科には診察・健診業務の機能向上を目的にオート無散瞳型眼底カメラを整備しました。高感度・高解像度で多彩な機能により検査能力が向上しています。



【宅地・住宅の整備】

◆町営住宅に火災報知器を設置

消防法で設置が義務付けられている火災報知器を町営住宅に設置しました。



▲鯖江・丹生消防組合消防署丹生分署

【防災・救急体制】

◆鯖江・丹生消防組合消防署丹生分署の建設

鯖江・丹生消防組合消防署丹生分署が、平成21年6月に完成しました。安全で安心なまちづくりの基盤としてスタートしました。

人が輝き交流で満ちあふれるまちづくり

【地域コミュニティの育成】

◆ **コミュニティセンターの整備**
 コミュニティセンターは、行政窓口機能や生涯学習機能などを備えた複合施設で、行政サービスの維持や地域の活性化、地域コミュニティの活動拠点として整備が進められています。

【国際交流】

◆ **越前町国際交流協会による交流の推進**
 町内外に住む外国人のための相談窓口の設置や国際交流員の配置、外国人の自立支援と地域共生に向け、国際交流フェスティバルなどに取り組みました。

また、今年度は主にアメリカの生徒受入交流など地域レベルでの国際化、地域活性化に向けた活動を行いました。



【男女共同参画社会の推進】

◆ **男女共同参画の推進**
 町・町民および事業者が一丸となって男女共同参画社会の実現に向けた意識調査を行いました。この意識調査をもとに、「男女共同参画推進条例（仮称）」制定に向けて取り組んでいます。

【学校教育環境の充実】

◆ **朝日中学校が開校**
 新朝日中学校の校舎、屋内運動場ならびに屋外運動場を整備し、4月5日開校式および入学式を行いました。

◆ **学校ICT（情報通信技術）環境を整備**
 平成23年7月のテレビ放送の完全デジタル化対応するため、各小中学校にデジタルテレビを、わかりやすい授業の展開を図るため電子黒板を併せて導入しました。
 また、老朽化した越前中学校のパソコン教室の機器の更新に併せ、教員用・普通教室用パソコンを新たに導入しました。

◆ **旧朝日中学校の解体を実施**
 新朝日中学校が完成し、使用しなくなった旧朝日中学校の解体工事を行いました。

◆ 耐震補強工事を実施

平成18年度に実施した耐震診断結果に基づき、常磐小学校、宮崎中学校、越前中学校の補強工事およびリフレックシユ工事を行っています。

◆ **非常勤講師および生活支援員を配置**
 障がいを持つ児童・生徒が安全な学校

7路線の排水施設や舗装整備を行い、林道の安全確保に努めました。

【水産業の振興】

◆ **漁港漁場の整備**
 底曳網漁場において、微生物の増殖を促し漁場の環境を保全するため、海底を耕し、漁場の生産力の回復を図りました。
 また、米の浦漁港の漁業環境の改善のため、漁港用地の造成を行っています。

【自然環境の保全】

◆ **EMの利用方法を普及啓発**
 海土里の環境ネットワークと連携しながら、町内の小学校や各地区で説明会を開催し、米のとき汁を活用したEM活性液やぼかしづくりの普及活動を行っています。



【循環型社会の形成】

◆ **ごみの分別収集の推進**
 日常生活における大量消費・大量廃棄型社会を見直して、環境負荷の少ない生活スタイルづくりに向けて、ごみの減量化と3R運動の推進に取り組んでいます。

生活が送れるよう生活支援員を、また個に応じたきめ細やかな授業の展開が図れるよう非常勤講師を配置しました。

◆ 教育相談員を配置

各地区に教育相談員を配置し、悩みを抱える児童・生徒や保護者の相談活動を実施しました。また、悩みを抱える児童・生徒に対しての適応指導教室も行っていきます。

【生涯学習体制の充実】

◆ 各種講座の開催

越前町生涯学習センターおよび各分館において、学習内容の充実を図りながら子どもから高齢者まで参加できる様々な講座を開催しました。

【生涯スポーツの振興】

◆ ホッケー競技大会の開催

5月に第2回福井チャレンジカップ中学生ホッケー大会が、11月には第10回全日本中学生都道府県対抗11人制ホッケー選手権大会がそれぞれ開かれ、「ホッケーの聖地 越前町」で熱戦

が繰り広げられました。

◆ スポーツ大会開催を支援

町内の各競技団体が行う大会に対して開催経費の一部を補助しました。各大会には町内外から多くの競技者が集い、競技力の向上および競技を通じた交流も深められました。

◆ 全国大会への出場選手を支援

県内予選を勝ち抜き、全国大会や北信越大会へ出場した選手や監督に対して参加経費の一部を補助しました。

◆ 「えちぜんスポーツクラブ」活動の支援

いつでもだれでも気軽にスポーツに親しむことができる、総合型地域スポーツクラブ「えちぜんスポーツクラブ」の活動を支援しました。クラブでは、会員320人が20種目におよぶ教室でそれぞれ活動しています。



また、クラブとの共催で、季節ごとにカヌーや水泳、スキー教室などを開き、町内から多くの子どもたちが参加しました。

元気で活きみなぎるまちづくり

【農業の振興】

◆ **農業の担い手の育成支援**
 農業機械の整備に係る負担を軽減

し、地域農業を支える担い手の経営規模拡大などを支援しました。

【文化財の保護・継承】

◆ **展覧会「うつりゆく越前焼―三筋壺から左近精右衛門の技まで―」の開催**
 織田文化歴史館では、平安時代から現代までの越前焼を展示し、窯業史において当町が果たした歴史的な役割について紹介しました。

◆ 企画展「かたちづくる人々」の開催

雨田光平記念館では「かたちづくる人々」というテーマで、日展などで活躍されている町内在住の陶芸家、田村民藤、吉田豊一の両氏をとりあげ、「田村民藤 土と炎の五十年へ」、「吉田豊一 陶芸展」を開催しました。

◆ 越前学悠久塾の開催

越前学悠久塾は4年目をむかえ、50人が受講されました。町内の歴史・文化について学ぶだけでなく、町の行く調査の結果や、最新の研究成果に基づいた講義を行いました。



個性豊かで誇りのもてるまちづくり

【観光産業の活性化】

◆ **学生合宿誘致補助金制度がスタートしました**
 町内の文化・スポーツ施設を有効に活用し、町外からの交流人口を増加させることを目的に学生合宿誘致補助金制度を実施しています。現在までに県内外から文化・スポーツ合宿で来町した約1,200人の学生がこの制度を利用しています。
 今後は中京・関西方面の高校・大学などに積極的に営業活動を行い、制度利用者を増やすことで地域の活性化を図っていきます。

◆ 観光周遊バス運行事業

町の冬季における町内観光施設への誘客と、観光客の移動手段を確保する観光施設の周遊バスを運行しました。

町民に開かれた健全行財政のまちづくり

【財政の健全運営】

◆ 公共施設の民営化

民間の能力やノウハウを活用し、さらなるサービスの向上や運営経費の削減を図るため、指定管理者制度導入による公共施設の民営化を進めています。今年度から一部の施設で指定管理者を公募し、運営を行っています。



一般会計予算の概要

歳入

〔6月補正後予算との比較〕

■町税 前年度より7,048万5千円減少 (3.3%減)

個人・法人町民税の減少 (3.3%減)

個人住民税は、前年の個人所得の伸び悩みの影響により、前年度に比べ5,636万6千円減少の8億6,250万円、法人町民税は、企業業績の落ち込みにより、前年度に比べ4,615万円減少の6,185万円を見込んでいます。

■地方交付税

前年度より1億円増加 (1.8%増)

地域活性化・雇用等臨時特例費の創設により増加

普通交付税は、地域活性化・雇用等臨時特例費※1の創設などにより、前年度に比べ1億円増加の51億円を計上しています。特別交付税は、前年度と同額の7億円を計上しています。

※1「地域活性化・雇用等臨時特例費」は、雇用対策など「人」を大切にする施策に必要な経費を地方交付税の算定を通じて配分するものとして、平成22年度に創設されました。

〔目的別〕 歳出

(歳出全体507,213円)

農林水産業費 農道・林道整備、漁港改良などに 11億3,814万1千円 (47,048円)	土木費 道路・河川改良、住宅管理などに 9億7,390万円 (40,259円)	教育費 小・中学校教育、社会教育、スポーツ振興などに 13億4,923万3千円 (55,774円)	民生費 高齢者・障がい者福祉、子育て支援などに 29億4,129万4千円 (121,586円)	公債費 町債(借入金)返済に 19億5,789万1千円 (80,935円)
--	--	--	--	--

その他 議会運営、災害復旧、基金積立などに 2億1,629万4千円 (8,941円)	消防費 消防、防災対策などに 6億5,702万5千円 (27,160円)	商工費 商工業・観光振興などに 5億2,403万7千円 (21,662円)	衛生費 健康づくり、母子健診、ごみ処理などに 8億8,243万2千円 (36,478円)	総務費 コミュニティバス運行、交通安全・防犯対策などに 16億2,975万3千円 (67,370円)
---	---	--	---	---

教育費 小・中学校教育、社会教育、スポーツ振興などに 13億4,923万3千円 (55,774円)	民生費 高齢者・障がい者福祉、子育て支援などに 29億4,129万4千円 (121,586円)	公債費 町債(借入金)返済に 19億5,789万1千円 (80,935円)
--	--	--

民生費 高齢者・障がい者福祉、子育て支援などに 29億4,129万4千円 (121,586円)	教育費 小・中学校教育、社会教育、スポーツ振興などに 13億4,923万3千円 (55,774円)	公債費 町債(借入金)返済に 19億5,789万1千円 (80,935円)
--	--	--

公債費 町債(借入金)返済に 19億5,789万1千円 (80,935円)	民生費 高齢者・障がい者福祉、子育て支援などに 29億4,129万4千円 (121,586円)	教育費 小・中学校教育、社会教育、スポーツ振興などに 13億4,923万3千円 (55,774円)
--	--	--

※()内は、平成22年3月1日現在の越前町の人口24,191人で割った町民1人当たりの金額です。

した。

■町債

前年度より

3億6,550万円増加 (43.0%増)

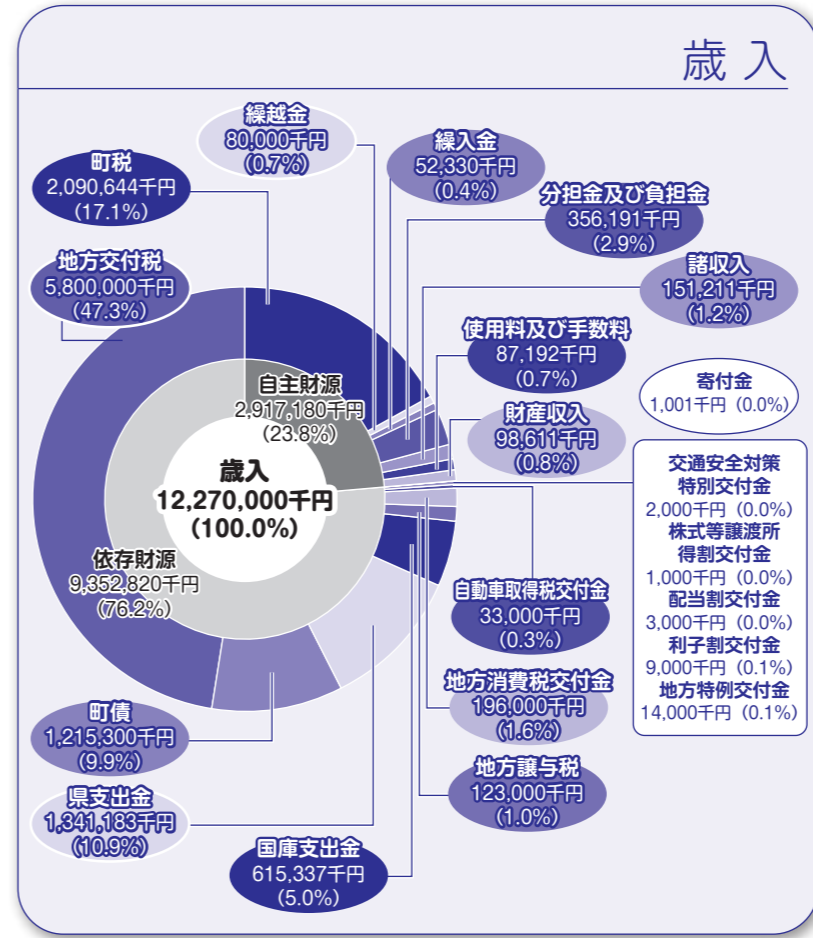
公債費負担適正化計画に基づいた

借入れ

町債は、宮崎コミュニティセンター1建設事業や人工芝ホッケー場



スタンド棟建設事業の実施により、前年度に比べ3億6,550万円増加の12億1,530万円を計上していますが、公債費負担適正化計画に基づく本年度借入予定額13億2,600万円以内としています。



プライマリーバランス(基礎的財政収支)は7億4,259万1千円の黒字

プライマリーバランスとは、歳入総額から町債借入額を引いた金額と、歳出総額から公債費(町債の元利償還金)を引いた金額の差で、基礎的な財政収支のことをいいます。

外的歳出を町債以外の歳入でまかなっていることとなり、町債の残高も減っていくため健全な状態です。一方、プライマリーバランスが赤字の場合は、公債費以外の歳出について町債を借入れなければならず、町債の残高も増えることとなります。

【平成22年度当初予算におけるプライマリーバランス】

(単位:千円)

一般会計歳入	町債	差引	一般会計歳出	公債費	差引	プライマリーバランス
12,270,000	1,215,300	11,054,700	12,270,000	1,957,891	10,312,109	742,591

歳入(町税等110億5,470万円)ー歳出(103億1,210万9千円)＝7億4,259万1千円の黒字

〔性質別〕

〔6月補正後予算との比較〕

■人件費

前年度より
8,151万4千円減少 (3.8%減)

職員数を削減

人件費は、定員適正化計画の着実な実行により、計画どおり職員数を削減しました。

■扶助費

前年度より
3億2,100万5千円増加 (27.1%増)

子ども手当の創設により増加扶助費は、子ども手当の創設などにより、前年度に比べ大きく増加しました。

■公債費

前年度より
6,845万3千円減少 (3.4%減)

町債借入れの抑制と繰上償還により削減

公債費は、前年度までの町債借入れの抑制と繰上償還による公債費負担の軽減効果などにより、前年度に比べ減少しました。



■普通建設事業費

前年度より

2億284万9千円減少 (10.4%減)

宮崎コミュニティセンター建設などを実施

普通建設事業費は、公の施設の管理運営方針に基づき、宮崎コミュニティセンター建設などの大規模工事を実施しますが、21年度の鯖江丹生消防組合丹生分署が完成したことや、公共施設の統廃合にともなう各公共施設解体工事が完了したこと

■物件費

前年度より

1億3,906万2千円減少 (8.6%減)

■経常的な管理運営経費の削減

物件費は、事務事業の効率化による内部管理経費と公共施設の統廃合などによる管理運営経費の削減に取り組んだことにより、前年度に比べ減少しました。

より、前年度に比べ減少しました。

